

# 論壇

## 麻薬撲滅で強盗が激減

「日本人は水と安全はタダと考えている」というようなことを書いたのは、大ベストセラーとなったイザヤ・ベンダサン氏の「日本人とユダヤ人」であった。若い頃、この本を読んで非常に強い印象を受けたのを覚えている。外の世界を知らない、日本の治安の良さがいかに貴重なものであるか分からない。

会議でフィリピンのマニラに来ているが、この国では今大変なことが起きている。ドゥテルテ新大統領による麻薬撲滅活動である。会議に参加していたこの活動の

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

政府の責任者の話はずいぶん政府の厳しい麻薬取り締まりによって、逮捕者と投降者は100万人を超えるという。囚人で満員となった写真を見た人もいるかもしれないが、監獄は超すし詰め状態である。

問題はこれだけの逮捕者と投降者を出すために、多くの犯罪者が

### フィリピンの「戦争」

警察や軍隊に殺されたというところだ。麻薬組織なので武装をしているし、抵抗する者も少なくないのだろう。何千人の人が射殺されたようだ。もちろん、警官なども犯罪者の抵抗で何十人も死んでいる。

こうした乱暴かつ危険な逮捕劇

に海外からは批判も少なくないが、フィリピンの国民の多くはドゥテルテ大統領を支持しているようだ。会議での捜査官の発言だと、一連の麻薬捜査によって多くの犯罪者が逮捕されたことで、強盗や婦女暴行などの犯罪が半減したというのだ。捜査官によると、フィリピンの犯罪の多くは

捜査官は、この麻薬捜査を麻薬組織に対する「戦争」と表現していた。単なる警察行為を超え

### 各地に反政府武力組織

て、捜査側も犯罪者も命をかけた戦争であるというのだ。国内ではピンとこないかもしれないが、フィリピンに限らず多くの途上国ではこうしたことが現実問題である。

会議の中では、フィリピンの安全保障の問題も議論された。安全保障といえば、中国やロシアなどの軍事的脅威の議論を想像する。

もちろん、南沙諸島などでの中国の軍事的圧力なども取り上げられた。ところが驚くことに、フィリピンの研究者たちは、フィリピン国内の安全保障の問題により多くの時間を使っていた。南部のミンダナオ島などでのモロ族の一部組

織による武力行為、反政府共産党組織や「イスラム国」信奉者などによるテロ活動などだ。フィリピンの地図を出し、同国のいたるところに政府に反旗を掲げる武力組織が存在することを強調する専門家もいた。

麻薬組織や反政府組織など、強大な武力を持つ政府と「戦争」する存在の組織が国内に存在する。これは、フィリピンだけでなく、新興国の多くの国の現実である。こうした治安の悪さが経済発展の障害ともなっている。そうした状況の改善に動いているフィリピンの状況は注目すべきだろう。

日本企業のフィリピンへの投資が増えていると言われるが、日本企業も治安の改善を評価し始めたのは確かだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。